

授業科目 基礎看護学概論	担当講師名 大山 もと子 (26H) 五味 靖 (4H)	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 1 年次
<p>学習目標(ねらい)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の本質、役割と機能、継続性について学び看護とは何か考える態度を身につける。 2. 看護の対象である人間、生活と健康のとらえ方について学ぶ。 3. 看護職の養成と就業、教育と課題について学び看護職とは何か考える態度を身につける。 4. 看護職の持つ倫理規定、医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、その活用を考える。 5. 社会においてサービスとして提供される看護のしくみを理解する。 			
回数 (1回90分)	単元	学習内容・方法	
1～4	1. 看護とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の本質 2. 看護の役割と機能 3. 看護の継続性と情報共有 場と健康レベルの継続と多職種連携の重要性 	
5～7	2. 看護の対象の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の「こころ」と「からだ」 生物体として生きることと生活を営み生きること 2. 生涯発達しつづける存在 3. 人間の「暮らし」の理解 	
6～8	3. 健康のとらえ方と国民の健康状態	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者の健康を看護の視点でとらえる 2. 健康とはなにか 健康の関連要因 3. 社会の変遷と健康観の変化 4. 人々の生活と健康に関する統計 	
9～10	4. 看護の提供者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業としての看護 2. 看護職の養成制度と就業状況 3. 看護職者の教育とキャリア開発 4. 看護職者の養成制度の課題 	
11～12	5. 看護における倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3. 看護実践における倫理問題への取り組み 	
13～14	6. 看護の提供のしくみ	<ol style="list-style-type: none"> 1. サービスとしての看護 提供の場 2. 看護をめぐる制度と政策 3. 看護サービスの管理 4. 医療安全と医療の質保証 	
15	7. まとめ及び終講試験	筆記試験	
評価方法		テキスト・参考書等	
筆記試験	レポート	看護学概論 医学書院	看護覚書 現代社
課題提出状況		看護の基本となるもの	日本看護協会出版会
備考		看護倫理	学研
<p>看護とは何か、看護職とは何かを学ぶ科目であり、看護を志す初学者としての基本となる姿勢・考え方を身につけ、自分の看護観を深めていけるよう積極的取り組みを期待する。</p>			

授業科目	担当講師名	単位数 1 単位	対象学年
基礎看護学方法論 I	羽地 和江	時間数 30 時間	1 年次
学習目標 (ねらい)			
1. 看護における技術の考え方を理解できる。 2. 感染防止の意義を理解し、感染防止のための技術を習得できる。 3. 対象の安全を守るための基礎的知識を理解し、安全を守る技術を学ぶ。 4. 医療事故・医療過誤の意味を理解し、その方策について述べるができる。 5. 人間関係を成立し、発展させるための技術を学ぶ。			
回数 (1回90分)	単元	学習内容・方法	
1～2	1. 看護技術とは	1. 技術の概念 2. 看護技術の定義 3. 看護技術の意味と基本原則 4. 看護技術の構成、修得 5. 基礎看護技術として求められる範囲 6. 看護技術の遂行に求められる能力 7. 看護技術の倫理について	
3～5	2. 感染防止の技術	1. 感染防止の基礎知識：感染の成立 2. 感染防止対策の基本 3. 我が国の感染に関する法律 4. 滅菌用品の取り扱い：無菌操作 (滅菌パックの開封、取り出し方、鉗子・挿子の取り扱い) 5. 感染予防のための援助方法の選択 6. 患者・家族への対応 7. 感染防止における看護師の行動	
7～9	学内演習	演習 ・手洗い法、 ・無菌操作 (滅菌手袋、鑷子の取り扱い) ・ガウンテクニック	
10～11	3. 安全を守る技術	1. 安全の意義と保証 2. ケアの中で発生しやすい事故 3. 医療事故の発生要因と防止の技術 1) 看護事故 2) 医療事故 3) 事故報告	
12～15	4. 人間関係を成立し、発展させるための技術を学ぶ。	1. 看護におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションの意義と目的 2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 3) コミュニケーションの種類と概要 4) 援助に必要なコミュニケーション (効果的コミュニケーションの実際) ロールプレイ	
	終講試験	1. 終講試験・学習のまとめ	
評価方法		テキスト・参考書等	
筆記試験 課題到達度状況		基礎看護技術 I 医学書院 基礎看護技術 II 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 DVD 感染予防の技術	
備考			
・看護技術の基礎を修得し、専門分野Ⅱ、統合分野へと発展させていきましょう。 ・微生物学、薬理学で学んだことを想起して、看護の安全にいかしていきましょう。			

授業科目	担当講師名	単位数 1 単位	対象学年
基礎看護学方法論Ⅱ	小牧 和代	時間数 30 時間	1 年次
<p>学習目標 (ねらい)</p> <p>1. 看護過程の意義について理解することができる。</p> <p>2. 看護過程の構成要素を知り、看護過程を展開する方法を理解できる。</p> <p>3. 看護介入に関する記録の種類・内容・方法について理解することができる。</p> <p>4. 看護過程における観察、報告の目的と留意点が理解できる。</p>			
回数	単元	学習内容・方法	
1～3	1. 看護過程とは	1. 問題解決法 演習	
	2. 看護過程の展開方法	2. 看護過程の対象とその基本構造	
4～5	3. 記録とは	3. 問題思考型システムとしての看護過程	
		4. フィードバックシステムとしての看護過程	
		1) クリティカルシンキング	
		2) リフレクション	
		5. 記録	
		1) 記録の意義、目的	
		2) 記録の管理	
		3) 看護記録	
		4) 電子カルテ	
		5) 経過記録とは	
		6) 経過記録の種類	
		(1) POS	
		(2) フォーカスチャーチング	
		(3) クリティカルパス	
		2) フローチャートとは	
6	4. 観察	演習 ・フローチャートの記載	
		・経過記録の記載	
7	5. 報告	6. 観察とは	
		1) 観察の方法	
		7. 報告とは	
		1) 報告の意義と留意点 (S B A R の活用)	
8～15	6. 看護過程の展開	8. ヘンダーソンの看護論に沿った看護過程の展開方法	
		1) アセスメント	
		2) 看護問題の明確化 (看護診断)	
		3) 看護計画の立案	
		4) 看護介入の実施	
		5) 評価	
	7. 事例展開	1. 終講試験	
	8. 終講試験及び振り返り	2. 学習のまとめ	
評価方法		テキスト・参考書等	
筆記試験 課題達成度状況		基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践 ヘンダーソンの基本的看護の関する看護問題リスト ト ヌーベルヒロカワ 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会	
備考 授業前必読「看護の基本となるもの」 看護過程の展開については時間割以外の自己学習も重要です。その学習過程も評価の対象となります。			

授業科目 基礎看護学方法論Ⅲ	担当講師名 樋木 恵	単位数 1 単位 時間数 45 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 1. バイタルサインの意義を理解し、バイタルサイン測定 of 技術を習得することができる。 2. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解し、フィジカルアセスメント of 技術を習得し、活用することができる。			
回数 (1回90分)	単元	学習内容・方法	
1	1. ヘルスアセスメント	1. ヘルスアセスメントとは 2. ヘルスアセスメントに必要な技術	
2～9	2. ヘルスアセスメントの実際 1) バイタルサインの観察とアセスメント	1) バイタルサインとは 2) 体温測定 of 目的と技術の実際 3) 脈拍測定 of 目的と技術の実際 4) 呼吸測定 of 目的と技術の実際 5) 血圧測定 of 目的と技術の実際	
10～11	学内演習	演習：バイタルサイン測定	
12	2) フィジカルアセスメントとは	1. 看護師の役割からみたフィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントとは 2) フィジカルアセスメントに共通する技術	
13～19	3) フィジカルアセスメントの実際	1. 全身状態のアセスメント 1) バイタルサインの活用 2) フィジカルアセスメント ① 身体的側面 ② 呼吸器系 ③ 循環器系 ④ 腹部	
20～22	学内演習	演習：フィジカルアセスメント 問診・視診・触診・打診・聴診	
23	3. 終講試験及びまとめ	筆記試験・学習のまとめ 実技試験：バイタルサイン測定	
評価方法		テキスト・参考書等	
筆記試験 実技試験 課題到達度状況		基礎看護技術Ⅰ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント インターメディカ	
備考 形態機能学で学んだ恒常性維持のための、「流通機構」、「調節機構」、「息をする」などの学習を想起しアセスメントできるようにする。			

授業科目 基礎看護学方法論Ⅳ	担当講師名 池田すがよ (10H) 羽地 和江 (20H)	単位数 1単位 時間数 30時間	対象学年 1 年次
学習目標 (ねらい)			
1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2. 快適で過ごしやすい環境の意義を理解し、充足のための援助技術が習得できる。 3. 「体を守る」ための清潔及び衣類を用いる意義を理解し、充足のための援助技術を習得する。			
回数	単元	学習内容・方法	
1～4	1. 環境の意義・援助 学内演習	1. 環境の意義 人間、健康、環境、看護と関連する。 2. 環境を整える技術 1)室内環境の調整 2)病床の整備 3)環境のアセスメント 演習：ベッドメイキング 実技試験	
5～11	2. 清潔の意義・援助	1. 身体の清潔の意義 2. 清潔のニーズのアセスメント 3. 清潔を保つ援助方法の選択・援助 講義：入浴・シャワー浴 講義・演習・視聴覚教材 ・部分浴（手浴・足浴・陰部洗浄）・全身清拭 ・洗髪（ケリーパッド・洗髪車） ・口腔ケア	
12～14	3. 衣服の意義・衣生活の援助 学内演習	1. 衣服の意義 1)生理的・身体的・社会的意義 2)衣類選択の援助 2. 寝衣交換 演習：寝衣交換	
15	4. 終講試験及びまとめ	実技試験全身清拭および寝衣交換 筆記試験・学習のまとめ	
評価方法		テキスト・参考書等	
筆記試験 実技試験 課題達成状況		基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護覚書 現代社	
備考			
・看護の概念である、人間・健康・環境・看護を関連させ考えていきましょう。 ・形態機能で学んだ「体を守る」を想起し、アセスメントに活かしましょう。 ・技術は繰り返し行い、身につけていきましょう。			

授業科目 基礎看護学方法論Ⅴ	担当講師名 福元 奈菜(14H) 内野 優子(16H)	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 1 年次
学習目標 (ねらい) 1. 「食べる」ことの意義を理解し、充足のための援助技術が習得できる。 2. 「排泄する」ことの意義を理解し、充足のための援助技術が習得できる。			
回数 (1回90分)	単元	学習内容・方法	
1 2 3～4	1. 食事援助技術	1. 食事援助技術の概要と目的 2. 栄養・食行動に関するアセスメント 3. 食事介助 4. 摂食・嚥下訓練	
5	学内演習	5. 非経口的栄養摂取 演習：食事介助の実際	
6～7	2. 排泄援助技術	1. 排泄の基礎知識 2. 排泄援助の基本的姿勢 3. 排泄用具を用いた排泄行動	
8		4. 排尿障害時の援助 1) 導尿 2) 膀胱留置カテーテル	
9 10 11 12		5. 排便障害時の援助 1) 摘便 2) 浣腸	
13～14	学内演習	演習：便器・尿器の挿入 オムツ装着 ポータブルトイレ	
15	3. 終講試験及びまとめ	筆記試験	
評価方法		テキスト・参考書等	
筆記試験 課題提出状況		基礎看護技術Ⅱ 医学書院 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院	
備考 形態機能学で学んだ「食べる」、「トイレに行く」を想起し、アセスメントできるようにする。			

授業科目	担当講師名	単位数 1 単位	対象学年
基礎看護学方法論VI	内野 優子	時間数 30時間	1 年次
<p>学習目標 (ねらい)</p> <p>1. 「動く」ためのよい姿勢を保つ意義を理解し、充足のための援助技術が修得できる。</p> <p>2. 睡眠の意義を理解し、充足のための援助方法を学ぶ。</p> <p>3. 安楽の意義を理解し、充足のための援助技術が修得できる。</p> <p>4. 安静療法の意義を理解し、援助の方法を学ぶ。</p>			
回数 (1回90分)	単元	学習内容・方法	
1～9	1. 姿勢を保つ・活動を整える 学内演習	<p>1. 姿勢・活動に関する基礎知識</p> <p>2. 体位</p> <p>3. ボディメカニクス</p> <p>4. 体位変換</p> <p>5. 移乗動作介助</p> <p>6. 車椅子移乗・移送</p> <p>7. ストレッチャー移乗・移送</p> <p>8. 姿勢・体位に関する安全</p> <p>9. 体位変換の新しい考え方 演習 体位変換・車椅子移動</p>	
10	2. 睡眠・覚醒、休息の援助	<p>1. 睡眠・休息の基礎知識</p> <p>2. 睡眠障害のアセスメント</p> <p>3. 睡眠・休息の援助</p>	
11～12	4. 苦痛の緩和、安楽確保の援助	<p>1. 体位保持</p> <p>2. 罨法</p> <p>3. リラクゼーション</p>	
13～14		<p>4. 安静療法とは 安静療法を受ける患者の看護 ・安静の意義 ・安楽に安静療法を受けられるための援助</p>	
15	5. 終講試験及びまとめ		
評価方法		テキスト・参考書等	
<p>筆記試験</p> <p>課題達成状況</p> <p>実技試験</p>		<p>基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>臨床看護総論 医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>参考図書は随時紹介する</p>	
<p>備考</p> <p>通常私たちが、何気なく行っている活動と休息。健康に障害を受けた場合、どのように活動と休息を整えたらいいのかを学びます。形態機能学での知識を生かして、看護の学習をすすめて下さい。</p>			

授業科目 基礎看護学方法論Ⅶ	担当講師名 羽地 和江 (14H) 内野 優子 (10H) 小牧 和代 (4H) 非常勤講師 (2H)	単位数 1単位 時間数 30時間	対象学年 1 年次
学習目標 (ねらい) 1. 診察の援助の目的と対象の心理を理解し、援助方法が理解できる。 2. 検査の目的を理解し、援助方法がわかる。 3. 与薬の目的を理解し、適切な援助方法がわかる。 4. 治療・処置の意義・目的を理解し、対象のニーズを知り、援助方法について学ぶ。 5. 包帯の目的と種類及び包帯法の原則を理解できる。			
回数 (1回90分)	単元	学習内容・方法	
1～3	1. 看護師の役割 2. 検査	1. 看護師の役割 2. 検査 1) 検査の介助に関する基礎知識 2) 検体の採取とその取り扱い ① 尿検査 ②便検査 ③喀痰検査 ④ 血液検査 演習・採血 3) 検査の介助	
4～5	3. 治療・処置	1. 酸素療法 2. 演習：吸引 3. 体位ドレナージ 他	
6～9	4. 与薬	1. 与薬 2. 与薬に伴う看護 1) 経口与薬 2) 注射法 演習 ・ 筋肉内注射 ・ 点滴静脈内注射 3) 直腸内与薬 4) 輸血管理	
10～11	5. 救急救命処置	1. 一時救命処置の基礎知識 2. 急変時における初期対応 3. 心肺蘇生法 デモスト 救急蘇生法、AED 4. 止血法	
12～13 14 15	6. 創傷管理 10. 終講試験及びまとめ	1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷処置 演習 包帯法 3. 褥瘡のアセスメントとケア 1. 終講試験・学習のまとめ	
評価方法		テキスト・参考書等	
筆記試験 課題達成状況		基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 検査値早わかりガイド サイオ出版	
備考 検査、治療処置におけるの看護とは何かを学び、必要な援助技術を身につけます。薬理学、微生物学、形態機能学、医療安全などの知識を想起し、積極的に学習に取り組んでください。			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
基礎看護学方法論Ⅷ	大山 もと子	時間数	15 時間	2 年次
<p>学習目標（ねらい）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義を理解することができる。 2. 研究成果を活用する意義とその活用方法について理解することができる 3. 研究論文の種類や研究手法について理解することができる 4. 研究に必要な文献検索の方法を理解することができる。 5. 研究論文を批判的に思考することの必要性を理解することができる。 6. 看護研究における倫理的な問題を理解することができる。 7. 研究論文のまとめ方について理解することができる。 				
回数 (1回 90分)	単 元	学 習 内 容・方 法		
1～4	1. 看護研究の意義	1. 研究と実践活動 1) 「研究」「看護研究」は何か、 2) 看護研究の意義 目的 3) 実践の中から発見する研究課題 演習：看護実践のエピソード記述から私的疑問を見出し、文献調べを行い、公的疑問を明確化する		
	2. 研究に必要な文献検索検討	2. 研究に欠かせない文献検索と文献検討 1) 文献検索の方法 2) 文献検討とは		
	3. 看護研究にかかせない批判的思考	3. 研究論文を批判的に読む 1) クリティークのガイドラインに沿って抄読 2) 倫理委員会、研究過程の記録		
5～7	4. 研究論文の種類と研究手法	4. 研究の種類と特徴 1) 様々な研究方法、研究デザインの種類		
	5. 看護研究における倫理	5. 倫理的配慮 1) なぜ倫理的配慮が必要か 2) 倫理委員会、研究過程の記録		
	6. 研究成果を活用する意義と活用方法	6. 研究成果の実践への活用 1) 研究成果は何に役立つか 2) 看護実践と理論と研究の関連性		
	7. 研究論文のまとめ方	7. 研究の進め方 1) 研究計画書を作成する意義 2) 研究論文の構成（緒言～結論）		
8	終講試験	筆記試験 クリティークのまとめ		
評価方法		テキスト・参考書等		
筆記試験 課題達成状況		プリント 看護学概論 医学書院 看護倫理 学研		
<p>備 考</p> <p>研究はものごとを追求し、科学的思考力を養う大切な科目です。この科目の履修により、より良い看護を迫及する姿勢を身につけ、自身で研究を行っていく基礎的能力を育成します。</p> <p>研究を難しく考えず、自分自身で積極的に課題に取り組み、新たな知見を得る楽しみを見つけてください。</p>				

授業科目 臨床看護総論	担当講師名 専任教員	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2 年次
学習目標(ねらい) 1. 健康障害をもつ人の看護学的視点が理解できる。 2. 経過に基づく患者の看護を理解する。 3. 主要症状を示す患者の看護を理解し、援助方法を学ぶ。 4. 治療・処置を受けている患者の看護を理解する。			
回数 (1回90分)	単元	学習内容・方法	
1	1. 健康のニーズをもつ人の理解	1. 健康レベル、成長発達段階、機能障害、生活機能からとらえた対象と家族のニーズ	
2～5	2. 疾病の経過と看護	2. 健康の維持増進を目指す看護の特徴 1. 急性期、慢性期、リハビリ期、終末期における看護	
6	3. 主要な症状をきたす対象者への看護	1. 高体温・低体温・チアノーゼ	
7		2. 疼痛	
8		3. 浮腫・脱水	
9		4. 嘔気・嘔吐・黄疸	
10		5. 意識障害	
11	4. 治療・処置と看護	1. 放射線療法の看護	
12～14	5. 健康障害をもつ対象の看護	1. 健康障害について問題状況を含む事例について演習する。 1) 経過別 (急性期・慢性期・リハビリ期・終末期) 2) 症状別 (発熱・脱水・浮腫・意識障害・疼痛) 3) 治療・処置別 (安静・食事・薬物・放射線療法)	
15		6. 終講試験及びまとめ	1. 筆記試験・学習のまとめ
評価方法		テキスト・参考書等	
筆記試験 課題提出状況		臨床看護総論 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研 疾患別看護過程の展開 学研 病態生理学 医学書院	
備考 病理学の学習を想起し、疾病が身体に及ぼす影響について考える。			

授業科目 基礎看護学実習 I	担当講師名 専任教員1人 / 1G	単位数 1 単位 時間数 45 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 1. 看護活動の実際を通して、看護の対象と環境を知ることができる。 2. 対象との人間関係を成立させ、必要な日常生活行動の援助を安全に実践できる。			
回数	単 元	学 習 内 容 ・ 方 法	
	基礎看護学実習 I—① 病院	内容 1. 対象の健康障害の多様性 2. 病院および病棟、病床環境について見学、説明 ・ 部屋の種類、病室内構造、ベッドの構造、生活環境、 ・ プライバシーについて 3. 対象に行われている必要な看護援助 ・ 生活援助 ・ 診療の補助 ・ 観察・記録・報告・連絡 方法 ・ 学生 1 人 / 病棟看護師 1 人 ・ 担当看護師と行動を共にし、看護活動の実際を見学する。 実習要項・要領に準じて行う。(別紙参照) 実習記録 (別紙)	
	基礎看護学実習 I—② 病院	内容 1. 効果的なコミュニケーション ・ 態度、表情、言葉、場と時間の工夫 2. 日常生活行動援助計画と実施 3. 対象の状態に合わせた日常生活行動援助計画と実施方法 ・ 受け持ち承諾を取り行う ・ 1G : 教員 1 人 及び 臨床指導者配置 ・ 適宜助言指導を受け計画、実施、評価、修正、追加を行う。 ・ 学内で履修した講義を活用し、学生としての倫理を踏まえ行動する。 実習要項・要領に準じて行う。(別紙参照) 実習記録 (別紙)	
評価方法	テキスト・参考書等		
実習評価表に基づく評価			
備 考			

授業科目 基礎看護学実習Ⅱ	担当講師名 専任教員1人 / 1G	単位数 2 単位 時間数 90 時間	対象学年 2 年次
学習目標 (ねらい) 1. 対象を理解し、看護実践の基盤となる知識・技術・態度を習得できる。 2. 看護過程の展開を通して対象の健康障害に伴う日常生活の援助を実践できる。			
回数	単 元	学 習 内 容 ・ 方 法	
	基礎看護学実習Ⅱ	<p>内容</p> <p>対象の健康障害に伴う日常生活の援助を看護過程の展開を通し理論と共に考える。</p> <p>アセスメントツールに沿って情報収集：ヘンダーソン</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的欲求の未充足の状態と判断：分析 2. 充足した状態と未充足を引き起こす原因、誘因の特定 ：看護問題 4. 優先順位 5. 長期、短期目標の設定 6. 看護計画、実施 7. 評価 8. 修正 <p>自己の看護に対する考えを振り返る レポート提出： 「自己の行った看護を振り返って」</p> <p>方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人を受け持ちとする。 ・ 1G : 教員1人 及び 臨床指導者配置 ・ 適宜助言指導を受け看護過程の展開を行う。 ・ 学内で履修した講義を活用し、学生としての倫理を踏まえ行動する。 <p>実習要項・要領に準じて行う。(別紙参照)</p> <p>実習記録：要項参照</p>	
評価方法		テキスト・参考書等	
実習評価表に基づく評価			
備 考			